

道

2021年2月1日
(第66号)



小田川

浩さんと文さん夫妻は二人で支え合って暮らしていた。妻は夫のことを「パーキンソン病で、認知症で、困っています」と言い、夫は「妻の物忘れがひどい。しもの失敗が多く僕が始末する」などと話した。夫から早朝などに「私も妻も動けません。助けに来てください」という電話が時々あった。▼浩さんから「妻の面倒はもう限界です。どこか施設に入れてください」と声がかかる。その矢先に文さんが脳梗塞で病院に運ばれた。▼文さんは一ヶ月程で退院となるが、自宅での生活は困難とされ二四時間介護の施設に入った。夫はこれに同意したのだが、ややあつて猛烈な抗議の声が僕等に向く。「騙して施設に入れた」「家に戻せ」「妻と一緒に暮らす」。警察や役所にも電話した。▼数日して、体が動かなくなった浩さんは、自ら救急車を呼ぶ。パーキンソン病が悪化していた。「レビー小体型認知症」とも診断される。▼その後、入院治療で回復がみられた浩さんは、リハビリ病院を経て自宅に戻る。「在宅は無理」と思われたが本人が強く望んだ。▼そして、今、浩さんは自宅で一人元気に暮らしている。訪問診療、訪問看護、小規模多機能型居宅介護など、きめ細かな医療とケアが支える。先日、彼から僕に伝言が届いた——「林さん、妻の介護保険証をあなたに預けるが、無くさないように」。脱帽。

(※これは事実に基づくフィクションです。)

〒710-1301

岡山県倉敷市真備町箭田 5188

TEL. 090-5366-1497

MAIL michi-care@outlook.jp

H.P. <https://michi-care.jimdo.com/>

林道也



遠田
棕の木